

中央・山手地区（小学校） ブロック別学校再編プランの 検討のために

この資料は、地区別懇談会で参加者間の活発な意見交換ができるようにという観点で作成したものです。



ブロックの概要

町名

稲穂、花園、色内1・2丁目、港町、堺町、東雲町、山田町、相生町、入船、富岡、緑、最上、松ヶ枝、天狗山

通学区域から見た現在の学校配置

小学校 色内小学校、稲穂小学校、花園小学校、緑小学校、最上小学校、入船小学校
中学校 西陵中学校、菁園中学校、松ヶ枝中学校

町別学齢人口（27年度推計）

（人）

	小学生							中学生			
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	小計	1年生	2年生	3年生	小計
稲穂	19	32	26	16	29	30	152	27	25	17	69
花園1・3	8	8	9	4	5	3	37	4	12	7	23
花園2・4・5	19	19	13	19	14	27	111	23	15	18	56
色内1・2	19	8	17	13	15	12	84	15	12	8	35
港町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
堺町	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1
東雲町	4	3	6	3	4	1	21	3	5	4	12
山田町	6	0	3	3	3	2	17	0	3	2	5
相生町	3	1	4	7	4	1	20	2	3	4	9
入船1	7	4	8	6	3	5	33	2	3	7	12
入船2～5	29	27	36	28	32	41	193	37	30	31	98
富岡	13	11	22	19	13	20	98	31	17	21	69
緑	39	28	43	46	31	29	216	34	42	41	117
最上	24	24	20	25	24	24	141	27	24	26	77
松ヶ枝	19	15	19	14	23	18	108	21	19	22	62
天狗山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	209	180	226	203	200	214	1232	226	210	209	645

小樽市小中学校再編計画では、学校再編に当たっては次のとおりに進めるとしました。（抜粋）

- ◆ 統合の時期は、学校施設の状況、対象校の位置関係、統合前の児童生徒の交流期間等を総合的に考慮し、地区実施計画を策定し決めていきます。その際、同一地区内で、段階的な実施となる場合は、児童生徒が統廃合を繰り返して経験することのないような間隔とします。
- ◆ 統合学校は、原則として、既存の学校敷地、校舎を活用していくこととし、校舎が近年、改修・建て替えをしている場合を除き、大規模改修・建て替え時に合わせた施設設備の充実を図ることを基本とします。
- ◆ 統合学校の場所は、統合後の通学区域内のバランスと、校地・校舎の状況や通学上の安全などの条件を勘案して決定します。その際には、交通の利便性や冬期における周辺の除雪体制など、学校立地の条件としてより良好な環境であるかの観点も考慮します。
- ◆ 特別支援学級などについては、統合する時点での学級を確保し、統合学校に引き続き設置します。また、支援を必要とする児童生徒が新たに入学する場合は、原則として再編後の校区内の学校に就学できるよう配慮します。
- ◆ 学校再編に伴い、在学中に統合することになる学校への入学予定者については、再編後の新たな通学区域や通学距離を考慮した特例を、また、統合の時点での在學生についても、交友関係や通学距離などを考慮した特例を設け、指定校変更の承認をするなど学校指定に関する弾力的な運用を行います。

小学校の概要

各項目の数値は平成 21 年度現在のものです。

		色内小学校	稲穂小学校	花園小学校	緑小学校	最上小学校				
学校の規模等										
児童数	通常	143 人	355 人	188 人	173 人	223 人				
	特別支援	2 人	3 人	7 人	7 人	1 人				
学級数	通常	6 学級	12 学級	6 学級	6 学級	7 学級				
	特別支援	2 学級	2 学級	3 学級	2 学級	1 学級				
開校年月		明治 34 年 4 月	明治 28 年 2 月	明治 36 年 6 月	大正 9 年 4 月	昭和 27 年 11 月				
学校施設										
現校舎の建築年 (面積)		昭 32 (3336 ㎡)	平 7 (3545 ㎡)	昭 52 (1314 ㎡)	昭 45 (4368 ㎡)	昭 61 (4063 ㎡)				
		平 3 (642 ㎡)	平 8 (1248 ㎡)	昭 54 (2946 ㎡)						
耐震化優先度 (校舎)		②-1		③-1	①-4、②-1					
保有教室の内訳 (普通教室には学級 増で転用想定も含む)	普通	14 教室	14 教室	16 教室	20 教室	12 教室				
	特別	8 教室	7 教室	13 教室	7 教室	9 教室				
体育館面積	㎡	1,092 ㎡	1,092 ㎡	756 ㎡	734 ㎡	1,114 ㎡				
グラウンド実面積	㎡	2,700 ㎡	4,500 ㎡	3,500 ㎡	2,800 ㎡	7,300 ㎡				
通学環境										
隣接校との距離 (km)	稲穂小	(1.3)	花園小	(0.9)	稲穂小	(0.9)	花園小	(0.9)	緑 小	(1.2)
	手宮西小	(1.4)	緑 小	(1.1)	緑 小	(0.9)	稲穂小	(1.1)	入船小	(1.3)
	長橋小	(2.2)	色内小	(1.3)	量徳小	(1.3)	最上小	(1.2)	天神小	(2.3)
		量徳小	(1.8)	入船小	(1.6)	入船小	(1.4)			
在校生の最長通 学距離	(km)	長橋 1 (1.1)	富岡 2 (1.2)	相生 2 (1.1)	緑 3 (0.9)	最上 2 (1.1)				
最寄りのバス停		色内小学校下 (330m)	富岡 1 丁目 (200m)	花園公園通 (470m)	緑小学校前 (220m)	工業高校前 (150m)				
進学する中学校		西陵中	西陵中、菁園中	菁園中	西陵中、菁園中、 松ヶ枝中	松ヶ枝中				
その他										
ブロック内他校と 比較した特記事項		建築後 40 年超	社会教育施設 との複合施設 ことばの教室		建築後 40 年超					

小学校の概要(つづき)

		入船小学校
学校の規模等		
児童数	通常	183人
	特別支援	1人
学級数	通常	6学級
	特別支援	1学級
開校年月		昭和5年12月
学校施設		
現校舎の建築年 (面積)	昭51(2154㎡) 昭52(1344㎡)	
耐震化優先度(校舎)	③-2、④-2	
保有教室の内訳 (普通教室には学級増で転用想定も含む)	普通	11教室
	特別	10教室
体育館面積 ㎡	780㎡	
グラウンド実面積 ㎡	4,900㎡	
通学環境		
隣接校との距離 (km)	奥沢小(0.9) 最上小(1.3) 緑小(1.4) 花園小(1.6) 天神小(1.7)	
在校生の最長通学距離(km)	松ヶ枝2 (1.1)	
最寄りのバス停	入船学校下(330m)	
進学する中学校	菁園中、 松ヶ枝中	
その他		
ブロック内他校と比較した特記事項		

中学校の概要

各項目の数値は平成21年度現在のものです。

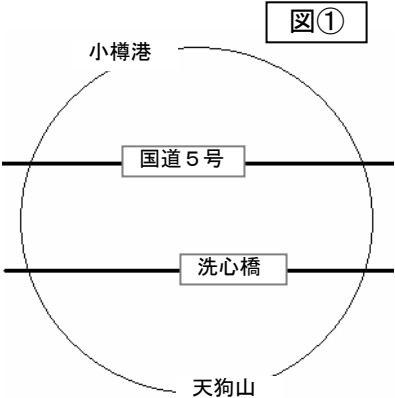
		西陵中学校	菁園中学校	松ヶ枝中学校
学校の規模等				
生徒数	通常	181人	310人	212人
	特別支援	1人	13人	-
学級数	通常	6学級	9学級	6学級
	特別支援	1学級	3学級	-
開校年月		昭和22年5月	昭和22年5月	昭和32年4月
学校施設				
現校舎の建築年 (面積)	昭57(4221㎡)	平14(5600㎡)	昭31(2691㎡) 昭34(947㎡) 昭36(1312㎡)	
耐震化優先度 (校舎)			①-4、②-1、 ②-2	
保有教室の内訳 (普通教室には学級増で転用想定も含む)	普通	12教室	普通	16教室
	特別	11教室	特別	14教室
体育館面積	1,024㎡	1,237㎡	1,237㎡	
グラウンド実面積	6,000㎡	3,000㎡	7,800㎡	
通学環境				
隣接校との距離 (km)	菁園中(1.5) 松ヶ枝中(2.6) 長橋中(3.7)	西陵中(1.5) 松ヶ枝中(2.4) 潮見台中(2.4)	向陽中(1.8) 菁園中(2.4) 西陵中(2.6)	
在校生の最長通学距離(km)	長橋2 (1.8)	奥沢3 (1.6)	最上2 (1.8)	
最寄りのバス停	富岡1丁目 (720m)	花園公園通(500m) 入船2丁目(510m)	松ヶ枝町(900m) 工業高校前(570m)	
校区の小中学校	色内小、稲穂小、緑小	稲穂小、花園小、緑小、入船小、量徳小	緑小、最上小、入船小	
その他				
他校と比較した特記事項	プール設置	ことばの教室	建築後40年超	

統合の組合せの考え方

すべての小中学校が再編の対象となり、学校再編計画で示したこのブロックの想定学校数は小学校3校、中学校2校です。

ブロック内には6校の小学校がありますので、隣接する2校の組合せによる統合が基本となります。

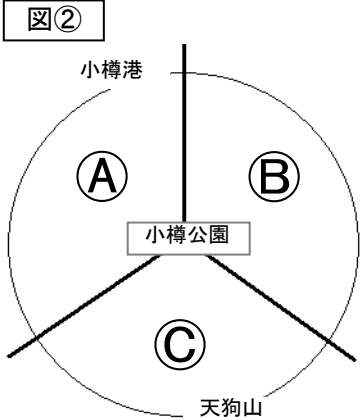
このブロックの地勢的な特徴から、主要幹線道路である国道5号以北とおおむね洗心橋を基軸として中部と南部に分割して3つのエリアを考える案（下左図①）と、おおむね小樽公園を中心として3方向に分割する案（下右図②）というような大きく2通りの組合せが考えられます。



2ページに町別学齢人口（27年度推計）を載せていますが、このブロックの小学生1,232人を、図①のように、国道を境界に分かれる花園（1・3丁目と2・4・5丁目）、入船（1丁目と2～5丁目）を区分したうえで集計すると、北部エリアは365人、中部は618人、南部は249人となり、児童数の偏在が見られます。

また、仮にこのエリアで区分した場合の国道以北の学校は西端（色内小）または東端（隣接ブロックの量徳小）になるので良好な校区設定となりません。

以上の点から、東西に長く分割する案ではなく、今回の各プランでは、図②のような3方向に分割する案を下地に、北西部エリア（Aグループ）、北東部エリア（Bグループ）、南部エリア（Cグループ）の3つの組合せとします。



小学校の現在の学校配置から、Aグループは色内小、稲穂小の組合せとしますが、BとCグループは最初から固定して考えません。

その上で、それぞれの校区をベースにして新しい通学区域と統合校の位置を検討したプランとパターンを示します。

このブロックは、小学校3校に対し、2校の中学校に再編する予定ですので、他のブロックのように、新しい中学校校区が2つの小学校の校区をそのまま合わせた形とはなりません。

また、ブロック内にはそのまま統合校として使用できない経年40年以上の校舎を持つ学校が3校（色内小、緑小、松ヶ枝中）ある一方、稲穂小は小学校で、菁園中は

中学校で一番最近に建て替えた学校ですし、最上小と西陵中も耐震基準を満たしている校舎となっています。

さらに、このブロックは、中心部に位置しているため、「塩谷・長橋地区」、「高島・手宮地区」「南小樽地区」の隣接するブロックの学校再編と密接に関係しています。

そういういくつかの観点から、学校再編計画では前期の再編期間に位置付けていますが、このブロックは小学校の再編を先行させて考え、一定の期間ののちに中学校の再編を検討します。



小学校のプラン1

現在の校区をもとにした、Aグループ（色内小、稲穂小）、Bグループ（花園小、入船小）、Cグループ（緑小、最上小）の組合せ

組合せグループ	新しい通学区域	統合校の位置	パターン
Aグループ	色内小、稲穂小の校区全域	現在の色内小	①
		現在の稲穂小	②
Bグループ	花園小、入船小の校区全域	現在の花園小	③
		現在の入船小	④
Cグループ	緑小、最上小の校区全域	現在の緑小	⑤
		現在の最上小	⑥

パターン	27年度児童数と学級数の推計	最遠地点からの概算距離 (主要道路経由)	大きな改修の必要性
A _緑 -① (色内小)	493人 16学級	緑1 1.8km	建て替えが必要
A _緑 -② (稲穂小)		長橋2 2.3km	増築が必要
B _緑 -③ (花園小)	379人 12学級	松ヶ枝2 2.4km	耐震化工事
B _緑 -④ (入船小)		相生1 2.3km	耐震化工事
C _緑 -⑤ (緑小)	381人 12学級	最上2 2.0km	建て替えが必要
C _緑 -⑥ (最上小)		緑1 1.7km	

プラン1の場合の27年度推計学年別内訳

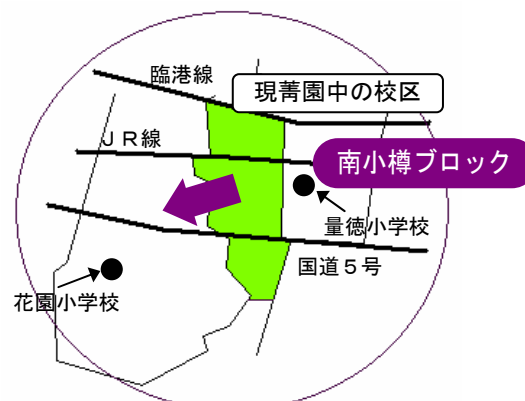
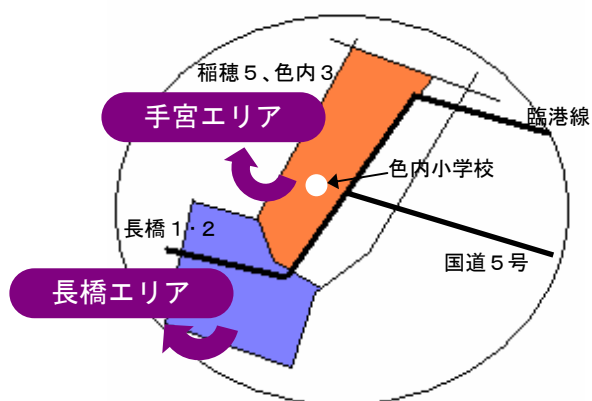
(人)

プラン1		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
Aグループ	児童数	78	68	100	75	83	89	493
	学級数	3	2	3	2	3	3	16
Bグループ	児童数	66	53	67	57	64	72	379
	学級数	2	2	2	2	2	2	12
Cグループ	児童数	67	59	63	72	62	58	381
	学級数	2	2	2	2	2	2	12

小学校の
プラン2

プラン1の組合せグループを基本にしなが、隣接するブロックと地勢や中学校区に重点を置いた組合せ

※ブロック西側の長橋1・2丁目⇒長橋エリア、ブロック北側の稲穂5丁目・色内3丁目⇒手宮エリア、南小樽ブロックの菁園中校区⇒Bグループに編入した上でのAグループ（色内小の一部、稲穂小）、Bグループ（花園小、入船小、量徳小の一部）、Cグループ（緑小、最上小）の組合せ



組合せグループ	新しい通学区域	隣接ブロック に編入	統合校の位置	パターン
Aグループ	・色内小校区のうち 稲穂4丁目 色内2丁目の一部	・稲穂5丁目、色内 3丁目（一部）は高 島・手宮地区統合校 ・長橋1丁目（一部）、 2丁目（一部）は塩 谷・長橋地区統合校	現在の稲穂小	⑦
	・稲穂小の校区全域		※このプラン2では、現在の色内小の場所は、新しい通学区域の外に立地していますので統合校になりません。	
Bグループ	・花園小、入船小の校区全域		現在の花園小	⑧
	・量徳小校区のうち菁園中校区		現在の入船小	⑨
Cグループ (プラン1と同じ)	緑小、最上小の校区全域		現在の緑小	⑤
			現在の最上小	⑥

パターン	27年度児童数 と学級数の推計	最遠地点からの概算距離 (主要道路経由)	大きな改修の必要性
Aグループ-⑦(稲穂小)	362人 12学級	色内2 1.3km	
Bグループ-⑧(花園小)	477人 15学級	松ヶ枝2 2.4km	耐震化工事
Bグループ-⑨(入船小)		相生1 2.3km	耐震化工事

プラン2の場合の27年度推計学年別内訳

(人)

プラン2		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
Aグループ	児童数	61	44	74	60	56	67	362
	学級数	2	2	2	2	2	2	12
Bグループ	児童数	84	68	87	71	80	87	477
	学級数	3	2	3	2	2	3	15
Cグループ (プラン1と同じ)	児童数	67	59	63	72	62	58	381
	学級数	2	2	2	2	2	2	12

小学校の プラン3

現在の校区をもとにした、Aグループ（色内小、稲穂小）、Bグループ（花園小、緑小）、Cグループ（最上小、入船小）の組合せ

組合せグループ	新しい通学区域	統合校の位置	パターン
Aグループ (プラン1と同じ)	色内小、稲穂小の校区全域	現在の色内小	①
		現在の稲穂小	②
Bグループ	花園小、緑小の校区全域	現在の花園小	⑩
		現在の緑小	⑪
Cグループ	最上小、入船小の校区全域	現在の最上小	⑫
		現在の入船小	⑬

パターン	27年度児童数 と学級数の推計	最遠地点からの概算距離 (主要道路経由)	大きな改修の必要性
B _{グループ} -⑩(花園小)	386人 13学級	緑3 1.6km	耐震化工事
B _{グループ} -⑪(緑小)		相生1 1.9km	建て替えが必要
C _{グループ} -⑫(最上小)	374人 12学級	入船2 2.2km	
C _{グループ} -⑬(入船小)		最上2 2.4km	耐震化工事

プラン3の場合の27年度推計学年別内訳 (人)

プラン3		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
Aグループ (プラン1と同じ)	児童数	78	68	100	75	83	89	493
	学級数	3	2	3	2	3	3	16
Bグループ	児童数	74	53	63	67	67	62	386
	学級数	3	2	2	2	2	2	13
Cグループ	児童数	59	59	67	62	59	68	374
	学級数	2	2	2	2	2	2	12

小学校の プラン4

プラン3の組合せグループを基本にしながら、隣接するブロックと地勢や中学校区に重点を置いた組合せ
 ※ブロック西側の長橋1・2丁目⇒長橋エリア、ブロック北側の稲穂5丁目・色内3丁目⇒手宮エリア、南小樽ブロックの菁園中校区⇒Bグループに編入した上でのAグループ（色内小の一部、稲穂小）、Bグループ（花園小、緑小、量徳小の一部）、Cグループ（最上小、入船小）の組合せ

組合せグループ	新しい通学区域	隣接ブロックに編入	統合校の位置	パターン
Aグループ (プラン2と同じ)	・色内小校区のうち 稲穂4丁目 色内2丁目の一部	・稲穂5丁目、色内3丁目(一部)は高島・手宮地区統合校 ・長橋1丁目(一部)、2丁目(一部)は塩谷・長橋地区統合校	現在の稲穂小	⑦
	・稲穂小の校区全域		※このプラン4では、プラン2と同じように現在の色内小の場所は、新しい通学区域の外に立地していますので統合校になりません。	
Bグループ	・花園小、緑小の校区全域	・量徳小校区のうち菁園中校区	現在の花園小	⑭
	・量徳小校区のうち菁園中校区		現在の緑小	⑮
Cグループ (プラン3と同じ)	最上小、入船小の校区全域		現在の最上小	⑫
			現在の入船小	⑬

パターン	27年度児童数と学級数の推計	最遠地点からの概算距離 (主要道路経由)	大きな改修の必要性
B _{グループ} -⑭ (花園小)	484人	緑3 1.6km	耐震化工事
B _{グループ} -⑮ (緑小)	16学級	住吉町3 2.1km	建て替えが必要

プラン4の場合の27年度推計学年別内訳

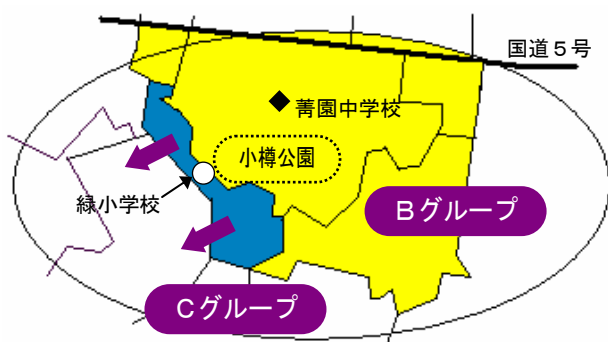
(人)

プラン4		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
Aグループ (プラン2と同じ)	児童数	61	44	74	60	56	67	362
	学級数	2	2	2	2	2	2	12
Bグループ	児童数	92	68	83	81	83	77	484
	学級数	3	2	3	3	3	2	16
Cグループ (プラン3と同じ)	児童数	59	59	67	62	59	68	374
	学級数	2	2	2	2	2	2	12



小学校の
プラン5

現在の3中学校の校区（A＝西陵中、B＝菁園中、C＝松ヶ枝中）をもとにしますが、菁園中校区のうち緑小校区（入船5丁目一部と花園5丁目一部）のエリアをBからCグループに変更した組合せ



組合せグループ	新しい通学区域	統合校の位置	パターン
Aグループ	現在の西陵中の校区	現在の色内小	⑯
		現在の稲穂小	⑰
Bグループ	現在の菁園中の校区の大半 (下のCグループ編入エリアを除く)	現在の花園小	⑱
		現在の入船小	⑲
Cグループ	・現在の松ヶ枝中の校区 ・現在の菁園中の校区のうち緑小校区 となっている入船5丁目の一部と花園5丁目の一部	現在の緑小	⑳
		現在の最上小	㉑

パターン	27年度児童数 と学級数の推計	最遠地点からの概算距離 (主要道路経由)	大きな改修の必要性
A _{グループ} -⑯(色内小)	447人 14学級	緑3 2.7km	建て替えが必要
A _{グループ} -⑰(稲穂小)		長橋2 2.3km	増築が必要
B _{グループ} -⑱(花園小)	514人 16学級	奥沢4 1.9km	耐震化工事
B _{グループ} -⑲(入船小)		色内1 3.1km	耐震化工事
C _{グループ} -⑳(緑小)	390人 12学級	最上2 2.0km	建て替えが必要
C _{グループ} -㉑(最上小)		最上2 1.1km	

プラン5の場合の27年度推計学年別内訳 (人)

プラン5		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
Aグループ	児童数	72	65	93	64	77	76	447
	学級数	3	2	3	2	2	2	14
Bグループ	児童数	92	71	96	80	80	95	514
	学級数	3	3	3	2	2	3	16
Cグループ	児童数	65	59	61	74	68	63	390
	学級数	2	2	2	2	2	2	12



プランとパターンから見た場合の検討結果

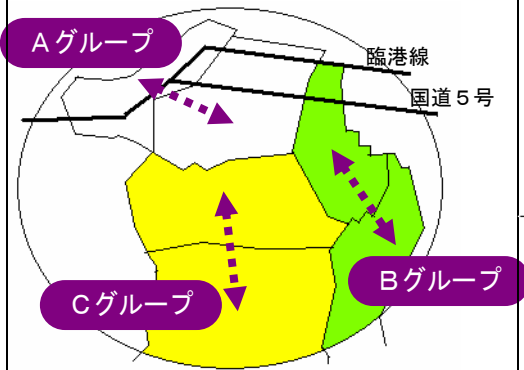
- ◆ このブロックは、5、6ページの「統合の組合せの考え方」でも触れたように、小学校と中学校の校区が輻輳（ふくそう）しており、学校施設も、最近建て替えた学校から建築後40年以上の学校まで様々な状況です。また、学校の敷地面積から思うような増築ができない学校もあるため、他のブロックと比べ再編のプランや学校位置のパターンについて、一定の制約の中で検討しなければなりません。
- ◆ 小学校のプラン1とプラン3は、Aグループ＝色内小＋稲穂小の校区で同じですが、Bグループの組合せを、プラン1＝花園小＋入船小の校区とし、Cグループは緑小＋最上小の校区としています。プラン3＝花園小＋緑小の校区とし、Cグループは最上小＋入船小の校区に変えています。
- ◆ プラン2とプラン4は、上のプラン1とプラン3の枠組みで、色内小学校の校区を3分割し、そのうち国道・道道以東をAグループに入れ、逆に量徳小校区の西側部分をBグループに編入した分け方です。
- ◆ プラン2とプラン4のねらいは、新しい通学区域内で、交通量が多く横断に注意が必要な稲北付近の国道・道道横断を避けることができることと、隣接する高島・手宮地区及び南小樽地区の再編プランに連動して、それぞれのブロック内で学校規模が平準化できる点です。
- ◆ このブロックの特殊性として、小学校の再編を先行させて考えますが、ブロック内の3中学校の中で、松ヶ枝中学校は昭和31年開校時の校舎のままで老朽化が進んでいます。将来的な人口推計や立地環境から、今後の中学校再編を想定しても、現在地での建て替えは現実的ではありません。そのため、中学校の再編を終えるまでの間、松ヶ枝中学校は、校区内の小学校を改造して移転することを検討します。

.....

【プラン別の検討】

◆ プラン1

特長点	パターン		留意点
<ul style="list-style-type: none"> 現在の校区の統合なので、再編時に在校生の分割がない 	Aグループ	①	<ul style="list-style-type: none"> ①色内小は建て替え必要 ②多くの児童が国道・道道横断 ③グラウンドが狭い ④一番新しい稲穂小の閉校
		②	<ul style="list-style-type: none"> ①増築必要だが敷地が確保できない ②長橋側からの通学経路が長くなる
	Bグループ	③	<ul style="list-style-type: none"> ①松ヶ枝方面からの通学不便 ②耐震化工事が必要（④も同じ） ③グラウンドが狭い
		④	<ul style="list-style-type: none"> ①旧塚小校区からの通学経路が長い ②耐震化工事が必要（③も同じ） ③学校付近のアクセスが良くない
	Cグループ	⑤	<ul style="list-style-type: none"> ①緑小は建て替え必要 ②グラウンド含めた校地面積が狭い ③校区の北端に近い
		⑥	<ul style="list-style-type: none"> ①校舎とグラウンド面の高低差5m

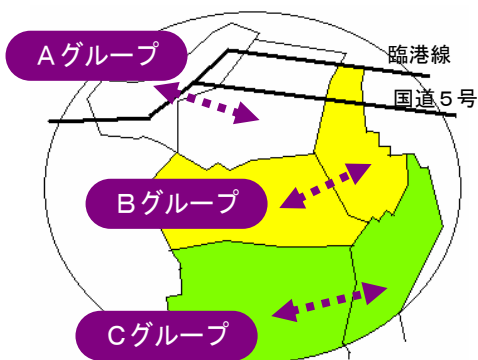


◆ プラン2

特長点	パターン		留意点	
<ul style="list-style-type: none"> Aグループでは、通学時の国道・道道横断が避けられ、最遠地点からの概算距離も短縮される プラン1では困難だったAグループの学校規模が受け入れられる範囲になる Bグループでは、3学級の学年ができ、学習に幅ができる Cグループは現在の校区の統合なので、再編時に在学生の分割がない 	Aグループ	⑦	<ul style="list-style-type: none"> ①特別支援学級の増設や放課後児童クラブの設置などについては現状維持が前提で大きな変更は無理 	
		Bグループ	⑧	<ul style="list-style-type: none"> ①松ヶ枝方面からの通学不便 ②耐震化工事が必要（⑨も同じ） ③グラウンドが狭い
	⑨		<ul style="list-style-type: none"> ①旧塚小校区からの通学経路が長い ②耐震化工事が必要（⑧も同じ） ③学校付近のアクセスが良くない 	
	Cグループ	⑤	パターンは上のプラン1と同じ	
		⑥		

◆ プラン3

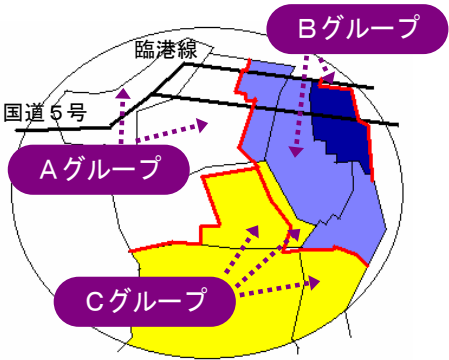
特長点	パターン	留意点	
<ul style="list-style-type: none"> 現在の校区の統合なので、再編時に在校生の分割がない Bグループでは統合校の位置が比較的校区の中央になる 	Aグループ	①	パターンは14ページのプラン1と同じ
		②	
	Bグループ	⑩	①緑側からは小樽公園を越える通学経路 ②耐震化工事が必要
		⑪	①花園側からは小樽公園を越える通学経路 ②緑小は建て替え必要
	Cグループ	⑫	①校舎とグラウンド面の高低差5m
		⑬	①耐震化工事が必要 ②からまつ公園付近からの通学経路が長くなる ③学校付近のアクセスが良くない



◆ プラン4

特長点	パターン	留意点	
<ul style="list-style-type: none"> Aグループでは、通学時の国道・道道横断が避けられ、最遠地点からの概算距離も短縮される プラン3では困難だったAグループの学校規模が受け入れられる範囲になる Bグループでは、3学級の学年ができ、学習に幅ができる Bグループでは統合校の位置が比較的校区の中央になる Cグループは現在の校区の統合なので、再編時に在校生の分割がない 	Aグループ	⑦	パターンは14ページのプラン2と同じ
		Bグループ	
	⑮		①花園側からは小樽公園を越える通学経路 ②緑小は建て替え（16学級規模）必要
			Cグループ
	⑬		

◆ プラン5

特長点	パターン	留意点	
<ul style="list-style-type: none"> ・ ブロック内の3中学校の現在の校区をほぼ踏襲しているため、地域的なバランスが保たれる ・ 中学校の校区を基本としているため、地域的には違和感が少ない 	Aグループ	⑩	<ul style="list-style-type: none"> ①色内小は建て替え必要 ②多くの児童が国道・道道横断 ③グラウンド含めた校地面積が⑪に比し狭い ④一番新しい稲穂小の閉校
		⑪	<ul style="list-style-type: none"> ①増築必要だが敷地が十分に確保しづらい ②長橋側からの通学経路が長くなる
	Bグループ	⑫	<ul style="list-style-type: none"> ①耐震化工事が必要（⑬も同じ） ②グラウンドが狭い
		⑬	<ul style="list-style-type: none"> ①旧堺小校区からの通学経路が長い ②耐震化工事が必要（⑫も同じ） ③学校付近のアクセスが良くない
	Cグループ	⑭	<ul style="list-style-type: none"> ①緑小は建て替え必要 ②グラウンド含めた校地面積が狭い ③校区の北端に近い
		⑮	<ul style="list-style-type: none"> ①校舎とグラウンド面の高低差5m

◆ プラン別に統合校の位置のパターンについて、いくつかの特長と留意する点をあげながら比較しましたが、次にグループ別に見た統合校の位置についての検討をします。

Aグループ	<p>このグループは、色内小学校と稲穂小学校の比較となりますが、建て替えが条件となる色内小学校の位置より、稲穂小学校の校舎を使用した統合の方が、総合的に優位です。</p> <p>しかし、同校の学校敷地で大幅な増築は無理ですので、再編後も12学級規模が見込まれるプラン2とプラン4が選択肢となります。</p> <p>プラン5においても、稲穂小学校を統合校の位置とすることが適切ですが、留意点としてあげた部分の解決には、今回はプランとして作成していませんが、プラン2やプラン4で示したAグループの校区</p>	稲穂小学校の位置が優位と考えます。
-------	--	-------------------

Aグループ (続き)	設定も考慮していくことも検討できるのではないかと思います。	
Bグループ	<p>プラン1と2のBグループでは、いずれも耐震化工事が必要ですが、アクセス面で花園小学校の位置がやや優位と言えます。</p> <p>プラン3と4のBグループでは、緑小学校の位置では建て替えが条件となりますので、耐震化して改修することが可能な花園小学校の方が優位です。</p> <p>プラン5のBグループでは、校区内の統合校の位置から花園小学校が優位です。</p>	花園小学校の位置が優位と考えます。
Cグループ	<p>【プランのパターンからの検討】</p> <p>Cグループは、統合校の位置として、プランにより、緑小学校、最上小学校、入船小学校の3校のパターンが設定されます。</p> <p>現状の学校施設からの比較では、緑小学校は建築年数から建て替えが条件となり、入船小学校は耐震補強を含む改修が必要です。</p> <p>一方、最上小学校はこの3校の中では比較的新しい校舎で、耐震基準から補強工事は不要なため改修経費の面では優位ですが、保有教室が12教室であるため、特別支援学級の設置を想定すれば、現行の特別教室を普通教室に振り向ける必要が出ます。</p> <p>アクセス面では、入船小学校より他の2校の方が主要な道路に接している点から通学経路でやや優位で、特に、新しい通学区域内の児童の居住分布からは、緑小学校が優位です。</p> <p>【ブロック内の中学校の再編との関係からの検討】</p> <p>13ページに、このブロックの松ヶ枝中学校の学校施設について、校区内の小学校を改造したうえで移転することを想定していますが、現在の同中学校校区内の小学校は最上小学校です。校区に近接する</p>	中学校の再編との関係から、最上小学校は中学校施設に大規模改造し、小学校は緑小学校の位置に建て替えることが適切と考えます。

	<p>緑小学校や入船小学校も校区を広げてその移転対象の学校にすることも可能ですが、その場合は新しい校区の境界になってしまいます。</p> <p>そういうことから、松ヶ枝中学校に近接し、耐震工事が不要な上に、学校敷地面積からも中学校設置基準を十分に確保できる最上小学校を、中学校の教育活動に不足がないような改造をして、松ヶ枝中学校を移転します。そのため、最上小学校が組合せ校になっているCグループでは、最上小学校を統合校の位置とはできません。組合せとしている他の学校が、老朽化により現校舎の使用ができないと判断した場合は、再編後の学校規模に見合ったレイアウトをしながら建て替えます。</p>
--	--

小学校のプラン2とプラン4を選択する場合は、現在の色内小学校と西陵中学校の校区変更を伴いますので、「塩谷・長橋地区ブロック」と「高島・手宮地区ブロック」の学校再編との調整が必要です。

◆ 22年度推計人数から見た（プラン2・4）色内小学校の現在の校区児童のシミュレーション (人)

22年度時点の色内小	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
色内小校区の児童数	31	31	31	21	22	27	163
Aグループ統合校の児童	9	6	5	4	5	4	33
長橋エリアに編入の児童	11	12	14	6	9	7	59
手宮エリアに編入の児童	11	13	12	11	8	16	71
	現1年生	現2年生	現3年生	現4年生	現5年生		

(上記の表は現在の指定校変更分を考慮しないH21年5月1日時点での推計人数)